

研究課題「トキソプラズマ原虫の宿主免疫攪乱による病原性発揮機構の解析」

大阪大学・微生物病研究所・感染病態分野 山本雅裕

トキソプラズマ原虫は、ヒト及び家畜において流産や致死的な脳症を引き起こす病原性微生物です。トキソプラズマ原虫は感染宿主の細胞内でのみ生存可能な偏性寄生性生物ですが、感染宿主内で寄生生活を送る過程で宿主は免疫応答を起こしてその寄生生活を妨げようとします。一方トキソプラズマ原虫は宿主免疫の機能を攪乱するために種々のエフェクター分子を分泌していることが、私達のグループや欧米の研究グループを含めた解析から明らかとなってきました。従って本研究において、私はトキソプラズマ原虫のエフェクター分子群の病原性における役割を免疫学的観点から解析し、それらが標的としている宿主側分子の免疫系における役割を解明し、その作用点を生化学的に詳細に検討することで、大変予後が悪く人類の健康な生活と農業経済活動に多大な影響を与えるトキソプラズマ症撲滅のための新規の治療戦略を構築することを目的としております。